松浦船水棹婦言

二止

208
2
732

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

208
2
732

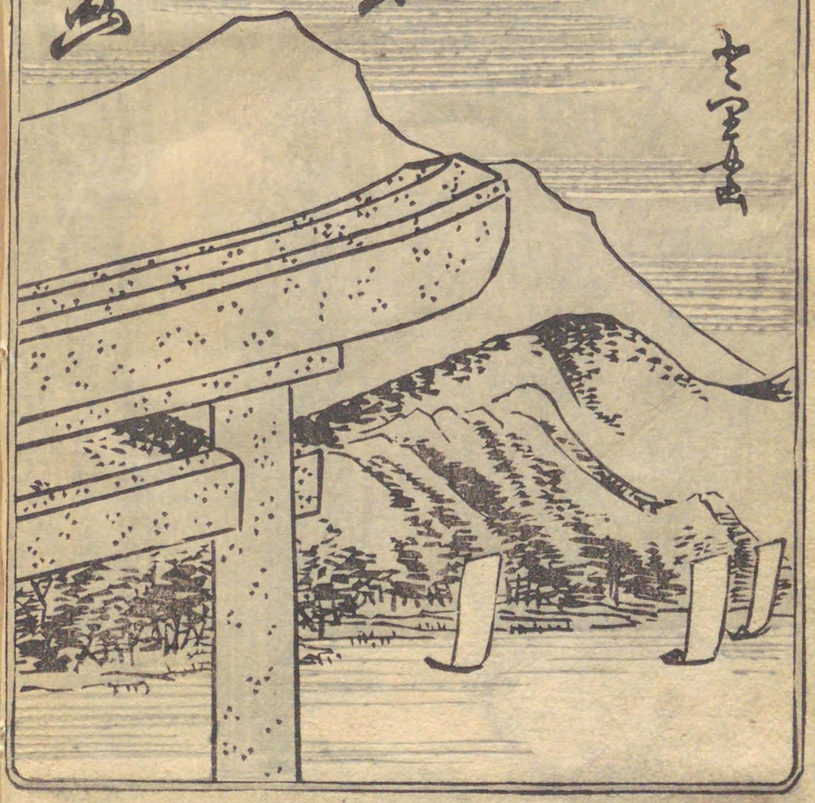
国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

松浦船水棹婦言

四編上

仙果緑國芳画



傳聞遊子伯陽ハ月に拓きつゝ契りをなし夫婦二ツの星となれ石氏の女ハ夫を葉の風と化て船を妨ぐ常陸風土記を見るに寒江郎子に安是嬢子筑波の嬥歌あり人見を愧化して松樹と成しと有又紀長谷雄卿の鬼と碁を囲揚て得られし美人ハ松を並べるに及び水となりて流矢ぬと繪巻物に作りたり妬婦の中にあるなりて夫を捨て佳人の金となりて親を冥たるハ常るまで在下も扎にかゝる刈ハ毎度車輪玉に化といへども然計にハ幼童達の競弄にもなりぬる拙手ハ又拙工相慈に手ハ空させぬ鈔緑物石に化る佐用姫の松浦にあとをと催促の店兒ハ彩にあり國子にあつて輓轉と眠ころぐる間に序の半丁ハ方纔卒功なり

嘉永八乙卯新刻

笠亭仙果

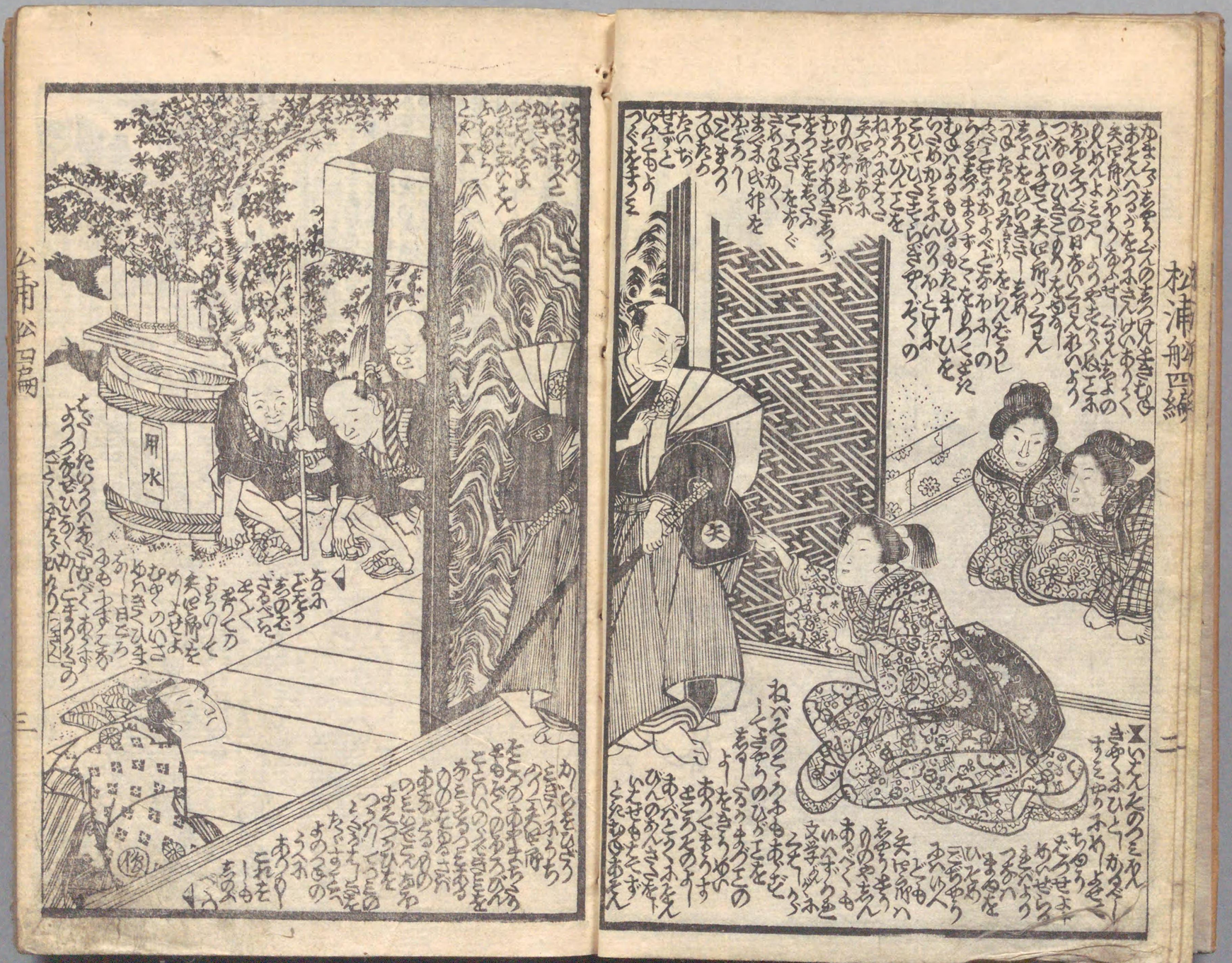
明治 45 7. 1 購求

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用



国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

「つぎ」つゞきのまきて

ゐるをりくうとゝおかくせんとまうふ人のかよ
だねことをもとゞかんそのかへ
すいきながらてんぐの
そらやもちぬさきこの
そのつゝこゝろいとうけと
らへのかちくひりちくひうまと
かりうどをうみくもかゝす
よおさきぞのこひあやとをうとをと
さきぐそくりぐらおぐらくからら
ぐいとかさこゞでつうちやきて
まりぐらうのくこひりの
おやおこゝろ〳〵をみのの
むひやかたをさらりと
ぬさかけまぐ〳〵よ
ちがいた
せんとまゝへ
ちやん平
ちうとう
くりこへ
ここゝろのの
ゝさるゝ
ゆさる
かりうおうこ
こゝをぜめ

■こゝろくうとゝおかく
だねことをもとゞかんそのかへ
すいきながらてんぐの
そらやもちぬさきこの
そのつゝこゝろいとうけと
らへのかちくひりちくひうまと
かりうどをうみくもかゝす
よおさきぞのこひあやとをうとをと
さきぐそくりぐらおぐらくからら
ぐいとかさこゞでつうちやきて
まりぐらうのくこひりの
おやおこゝろ〳〵をみのの
むひやかたをさらりと
ぬさかけまぐ〳〵よ
ちがいた
せんとまゝへ
ちやん平
ちうとう
くりこへ
ここゝろのの
ゝさるゝ
ゆさる
かりうおうこ
こゝをぜめ■

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

仙果録國芳画

本家 實母散

中橋南傳馬町二丁目東側 千葉堂孝輔製

御免痂積湯 せんきの妙茶

御用藥所 信州上田東山堂製

大日本國郡輿地全圖 大奉書六枚継 府郷御江戸繪圖 同断六枚継

江戸南傳馬町二丁目 葛屋吉藏

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

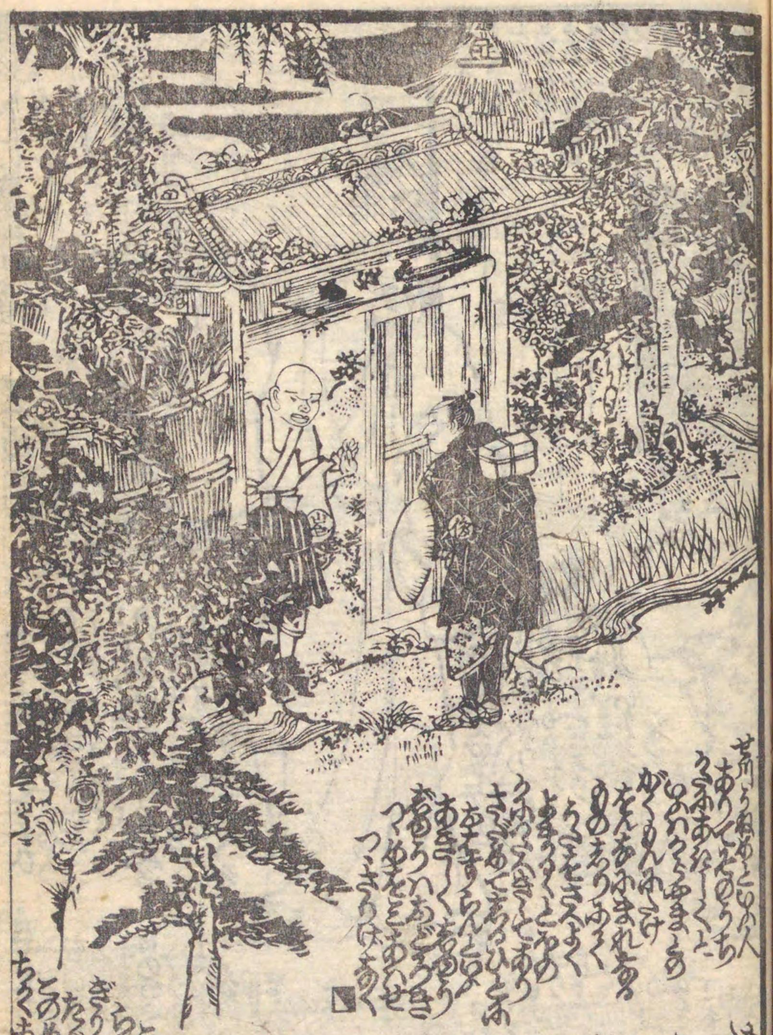
ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用



国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

松浦船水棹婦言

五編上

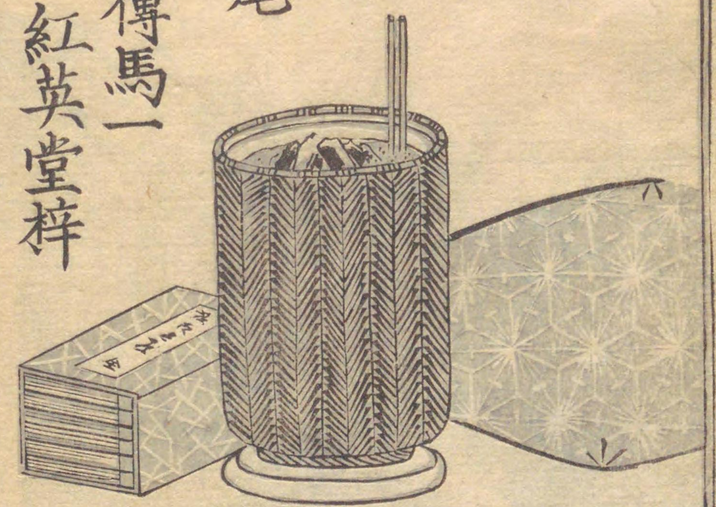
仙果錄

大尾

南傳馬一

紅英堂梓

國久画



欽明天皇御宇廿三年七月新羅攻の時吾軍利なく調吉士伊企儺と云軍將も
虜に其妻大葉子と共に殺されぬ伊企儺は首の座になりしまゝ新羅王を罵り
大葉子は詠歌して大倭を戀の義烈比類なし同八月大伴連狹手彦を遣し
高麗を伐しむ出船に及び佐用姫別を慟て石となる又高麗王は一戰に敗走
せしが新羅も怕て其十一月歸降しつ彼伊企儺を斬しは胡子和といふ者なく
語默齋の女系萩は此新羅人の託生まゝ伊企儺は浦次郎選如が前身なり
采女は狹手彦秋布は佐用媛の再來とは前々にも既粗記せり是は歌次郎が人
々に說知せるところにて本文にかき續ぐ所を文字勝にて傍假字の煩りしけなれば
卷端に錄して且序めかすにとそ

丙辰孟陬

仙果筆抄

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

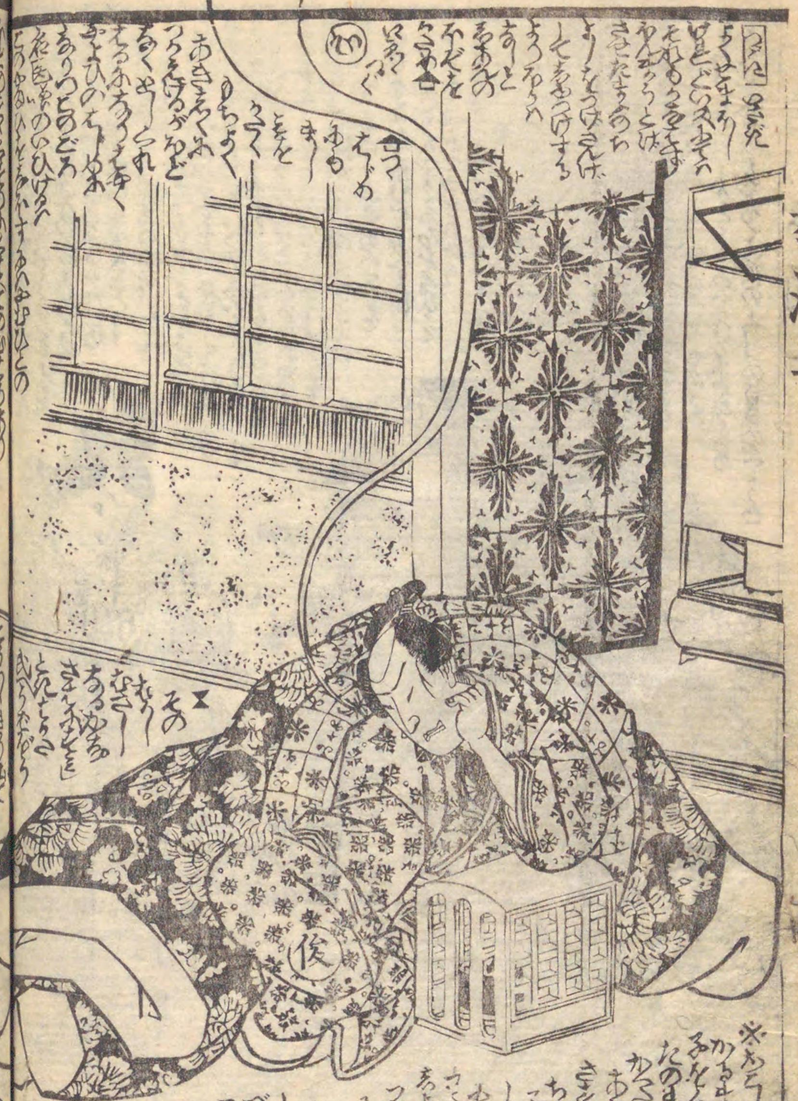
ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用



国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

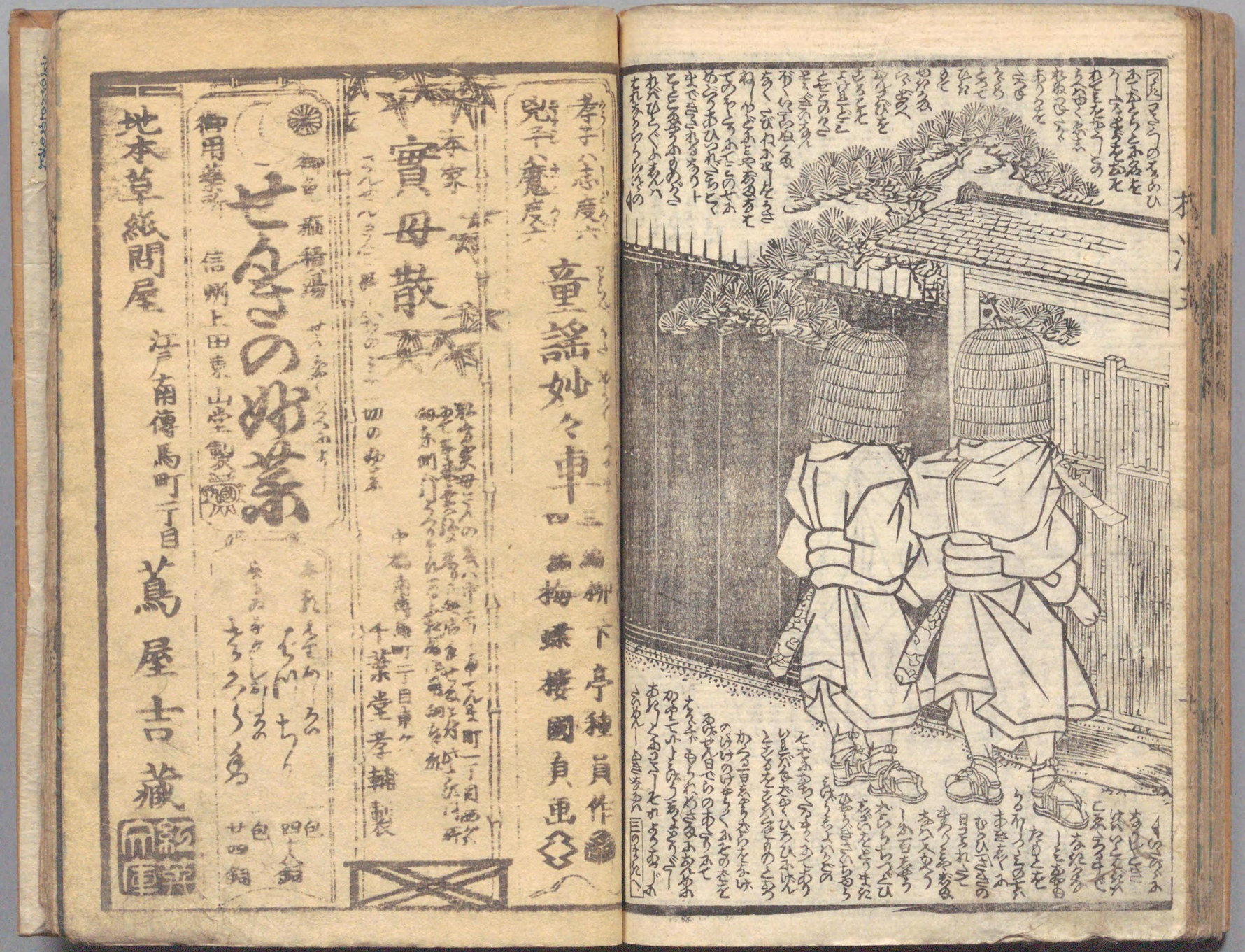
ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用



国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

208
2
732

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

208
2
732

第四番
すノ七

国立国会図書館　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用

国立国会図書館　　松浦船水棹婦言 5編20巻 208-732

ガラス使用